

富士フィルム・グリーンファンドは、今年（平成 28 年度）で 33 年目を迎え、昨年までの助成先は 149 件となりました。身近な自然を守るために地域に根づいた活動をしてきた方、あるいは環境保全の研究を実際に進めてきた方で、この助成によって大きな進展が望める活動や研究を対象としています。

今年度は 4 件程度、総額 850 万円の助成を予定しています。



平成 28 年
富士フィルム・
グリーンファンドに
ご応募ください*

締め切りは平成 28 年 5 月 9 日（月）

*応募要項の公開・配布期間は 3 月からです。応募要項のご請求は 3 月以降をお願いします。

応募要項をご希望の方は、ハガキまたはファクスに住所・氏名・電話番号・研究あるいは活動助成の別を明記の上、下記宛までご請求ください。また、一般財団法人自然環境研究センターのウェブページ (<http://www.jwrc.or.jp/>) から当該文書をダウンロードすることができます。

平成 28 年度

富士フィルム・グリーンファンドにご応募ください。



応募資格

1. 活動助成を申請するものは、身近な自然の保全や、自然とのふれあい活動を積極的に行っていること
2. 研究助成を申請するものは、身近な自然環境の保全・活用の促進に関する具体的な研究や、ふれあいの場としての緑地の質的向上を目指した実証研究等を行っていること

対象となる活動 / 研究

1. 営利を目的としない活動及び研究
2. 活動及び研究が行われるフィールドは、日本国内であること
3. 活動助成の場合には、活動フィールドができる限り申請者（申請団体）によって既に確保されている等、活動フィールドの基盤がしっかりしているもの
4. 研究助成の場合には、フィールドでの研究に対し地権者の許可もしくは協力関係が保たれているもの
5. 個人もしくは団体申請において、活動及び研究の実績があるもの（ある程度実績があり、発展的な活動や研究を行うための申請であれば対象となる）
6. 個人による申請の場合、助成金の使途が助成の趣旨に沿って適格・厳正であり、助成金の使途において本人あるいは親族等、特別な関係のある者に利益を与えないもの
7. 団体による申請の場合、代表者または管理者の定めのある団体で、役員その他の機関の構成、選任方法、その他事業の運営に重要な事項が特定の者、あるいは特別の関係者等の意志に従わずに、決定・運営されている団体。また、特定の者等に特別の利益を与えていない団体

過去 2 年の助成先

※ 団体名・所属名等は助成当時のものです

H26

- ・小笠原諸島、西島の森林再生 / NPO法人小笠原野生物研究会 / 東京都
- ・愛子子どもの森の保全とふれあい活動 / 森の応援団愛子ハグリッス / 宮城県
- ・ロープ魚礁とアマモによる生態系の創出計画 / NPO法人庄内浜を考える会 / 山形県
- ・鹿児島県出水市における保護ツルの臨床検査 ～野生復帰羽数の増加を目指した臨床研究～ 松崎 彩 (鹿児島大学共同獣医学部) / 鹿児島県
- ・琉球列島中部域における造礁サンゴの新規加入幼生の種多様性と遺伝学的集団構造に関する研究 中村雅子 (沖縄科学技術大学院大学) / 沖縄県
- ・奄美群島における希少野生植物の繁殖に関する生物相の基礎的研究 前田芳之 / 鹿児島県
- ・東日本大震災の津波被災地における地域農業資源の保全に関する実証研究 親山恵理子 (東北大学大学院) / 宮城県

H27

- ・『多摩川のケヤキと共生する会』 青梅市多摩川流域のケヤキの食害性害虫からの救済と緑陰の維持 / たまあじさいの会 / 東京都
- ・「松代おやっこ村」魅力アッププラン / 松代おやっこ村 / 新潟県
- ・奈良県レッドデータブックに記載されている自生山野草の保全と管理 里山の山野草を守る会 / 奈良県
- ・野焼きボランティアのための難燃性ゼッケン製作 全国草原再生ネットワーク / 島根県
- ・市民調査による岩手県の植物相の研究 / 鈴木まほろ (岩手県立博物館) / 岩手県
- ・希少動物アマミノクロウサギ保全に向けた分子遺伝学的アプローチ 溝口 康 (明治大学農学部) / 鹿児島県
- ・対馬に生息する希少植物種を保全するための植生回復および栽培試験に関する調査研究 東 浩司 (京都大学大学院理学研究科) / 長崎県
- ・サクラにおける効率的な挿し木繁殖法の確立 およびサクラ遺伝資源の保存・管理に関する基礎研究 / 田中秀幸 (島根大学) / 島根県

*写真は平成26・27年度の助成先より

